

『「秋保地区の交通を考える」全校授業』

【仙台市立秋保中学校 校長 千葉 慎】

仙台市立秋保中学校のある秋保地区は、30年前の仙台市との合併当時は人口 5,100 人を超えていましたが、現在は、4,100 人まで減少し、65 歳以上の高齢化率が 35%を超えています。本校の生徒数も合併当時 250 人を超えていたものが現在は 64 人まで減っています。また、生徒が利用する仙台市営バスの秋保二口路線は年間 7,000 万円以上の赤字となっています。このような中、市営バスの路線見直しが進められている状況にあり、交通事情の確保と改善を図るため「秋保地区の交通を考える会」が活動をされています。

今回、全校授業を通して中学生にも地域が抱える問題点について考える機会を設け、新交通システムの提案や高齢者の生活支援について興味を持たせたいと考え、中学生が地域住民の一員として秋保地区の交通について考えることで、地方再生コンパクトシティ構想などに関心を持ち、将来の担い手としての自覚と意欲を育みたいと考えております。授業では「秋保の交通を考える会」「JR 東日本 MaaS 事業」「秋保地域包括支援センター高齢者介護事業」について理解を深めることで、地域が抱える問題点について考え、新交通システムの提案や高齢者の生活支援について興味を持たせ、さらに、10 年後の秋保地域の担い手としての自覚と意欲を育むこととしました。

授業は 9 月 10 日（木）に本校体育館で新型コロナウイルス対策を徹底し、ソーシャル・ディスタンスに配慮して行いました。まず、夏休みに行ったリーダー研修会に参加した代表生徒がプレゼンテーションを行い「未来デザイン研究所～10 年後の秋保～」を発表しました。その後、3 人の講師に講話をいただきました。最後に全校生徒で「秋保地区の交通を考える」パネルディスカッションを行いました。

本校はカリキュラムマネジメントを取り入れ、SDGs に取り組んでおります。今回の全校授業では【目標 11 住み続けられるまちづくり】を目指し、各教科と領域と関連させながら取り組みました。

今回の授業の感想から、モビリティ・マネジメント教育を通して、まちづくりの将来の担い手としての自覚と意欲へとつなげることができたようです。

